



前文略ス
 ウレシ野ト申処ニテ入湯其節佐賀表ヨリ西ニ名は見舞ニ被
 余は咄致サレ候ヲ隔ノ間ヨリ窺聞候ニ近頃征韓論大ニ振立
 次第士氣憤發存ニ付我輩モ取鎮ニ方ニ苦心盡力致シ居候
 央ニ有マトノ了餘ハ用捨致シ聞取不申候得共追々人数六
 百余番械モ相揃次第ニ数増九州ハ元ヨリ四國ニテ之同様ニ事
 ニ兼リ候主人義モ頻ニ取鎮ニ方ニは盡力有マ趣何分直ニ鎮
 定々義無覺束候残念ナカラ陽聞之事故其確説ハ兼リ



前參議江藤正四位へ随行者ヨリ東京知音之向へ
 来状之内

114
 A 226

大正十一年四月
 大隈侯爵郵寄贈



不申候得共實ニ不容易歎勢ニ有之其内不遠當中旬ニ歸
京マ心得ニ候其節委細面談仕候

二月三日認

佐賀縣下新地八丁馬場清涼亭ヨリ出ス

右二月十三日東京到達